

最優秀賞

日揮社会福祉財団ふれあい賞

ぼくのお兄ちゃん

小田原市立山王小学校

五年 我妻 遼哉

お兄ちゃんとは、自分よりもできることが多く、しっかりしている人と思つていました。だけど、ぼくのお兄ちゃんは想像していた姿と少し違っています。なぜなら、ぼくやぼくの弟が話しかけても返事をしないでビデオをずっと観ています。ひとりごとも多いです。またゲームをする時間の約束が守れなくて母にいつも注意をされています。ぼくも約束を守れなくて叱られることがあります。次からは気をつけようとしたり紙に守ることを書いたりしています。しかしほくのお兄ちゃんは同じことをくり返し言われていることが多いです。また、ぼくのお兄ちゃんはわからないことをぼくによく聞いてきます。お兄ちゃんなのに弟のぼくに聞くのはおかしいと思うこともあります。こんなぼくのお兄ちゃんは、自

閉症スペクトラムという障害があると母が教えてくれました。

ぼくは、障害とは何かよくわからないので、障害についての絵本を読みました。障害とは、生まれつき脳の働きに違う所があつてみんなとは違う指令がでることがある、と書いてありました。周りの人よりも成長がゆっくりということや困ったことも多いということを知りました。

ぼくは、この本を読む前は障害のある人はみんなと違う所やできない事も多くかわいそうという気持ちがありました。しかしその考えは違いました。障害をもつている人も自分が大好きで色々なことをがんばつているとわかりました。だからこれから障害のある人と出会つた時はできないことをおしつけないでやさしくがんばれと言つてあげたいです。ぼくもお兄ちゃんと一緒にいるときんかばかりでいやだと思うことも多いですが大切な家族です。家族が困つている時は助けたり力になつてあげたいです。